

IEA石油市場レポートの概要（2015年9月11日公表）

（代表部仮訳のため、正確には IEA のホームページを参照）

1. 原油価格は、8月に6年間で最も低い価格となった。これは供給過剰状態が拡大し、世界経済の健全性、特に中国に関する関心が深まったため。レポート記述時点での原油価格は約\$48.10/bbl（ブレント）、約 \$45.20/bbl（WTI）。
2. 最近の石油価格の下落により、OPEC 非加盟国の供給は2016年に50万b/d近く減少することが見込まれる。これはここ20年間で最大の減少量。米国、ロシア、北海における生産量減がOPEC 非加盟国全体の生産を引き下げ、その生産量は5770b/dとなる見込み。特に、米国の石油増産を牽引してきたライトタイトオイルの生産量は、来年40万b/d縮小見込み。
3. OPEC 加盟国の原油生産は8月に22万b/d減少し3157万b/dとなった。これはサウジアラビア、イラク及びアンゴラにおける原油生産の減少による。OPEC 全体では、1年前と比べて120万b/d高い生産量を維持しているが、OPEC への需要は2016年に3130万b/dとなり、前年比で160万b/dの増加。これは、石油価格の低下がOPEC 非加盟国からの供給を減少させると同時に、トレンドを上回る需要増を支えたことによる。
4. 石油価格の低下と力強さを増しつつあるマクロ経済を背景に、2015年の世界石油需要の伸びはここ5年間で最も高い170万b/dに到達した後、2016年にはそれでもトレンド以上の伸びである140万b/dへと緩やかな伸びになる見通し。
5. OECD 諸国の石油在庫は、7月に更に1800万b/d膨らみ、29億2300万b/dという記録的数字となった。堅調な精製処理により原油在庫が990万b/d減少した一方、精製製品在庫は2670万b/d積み上がった。7月末時点において製品在庫は先行き需要の31.2日分をカバーすることになり、6月末より0.6日分の増となった。暫定的なデータに基づけば、8月には更に在庫増となる見込み。
6. 世界の精製処理量は、10月にかけての秋の精製処理量の削減前に、8月に季節的ピークである8090万b/dに達した。精製マージンは9月初めまで引き続き堅調であり続けたが、精製業者が暖房期へと対応するにつれて、その要因はガソリンから中間留分※に移行しつつある。

※代表部注：灯油等を指す。